第 16 回高木レクチャー

小林　俊行

2015 年 11 月 28 日(土)から 29 日(日)にわたって、東京大学数理科学研究科棟において第 16 回「高木レクチャー」が行われました。参加者は 250 名を超え、高木レクチャーとして過去最高の人数となり大盛況となりました。

高木レクチャーは、本学理学部数学教室の教授であった高木貞治先生のお名前を冠した定期講演会です。16 回目となる今回の高木レクチャーは、日本数学会と東京大学大学院数理科学研究科の共催で行われました。

今回、招聘した高木レクチャーの講演者は、バイロイト大学（ドイツ）のカタネーゼ教授、グレノーブル大学（フランス）のデマイリー教授、京都大学数理解析研究所の柏原正樹教授、ハーバード大学（アメリカ）のヤウ教授の 4 名でした。今回の高木レクチャーは、日本数学会小平邦彦生誕百年記念事業と連動して開催いたしました。当日の受付では、各講演者があらかじめ書き下ろした予稿を製本した約 230 ページのブックレット（次頁写真）が参加者に配布されました。

各招待講演者は次の講演タイトルで 2 回ずつレクチャーをされました。

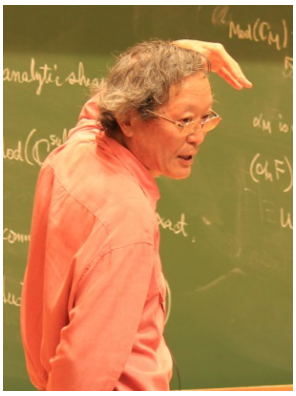
カタネーゼ教授　「小平のファイバー空間とその展開―モジュライ空間の方法」
デマイリー教授　「小林予想および Green - Griffiths - Lang 予想の最近の進展」
柏原正樹教授　「ホロノミック$\mathcal{D}$加群に対するリーマン=ヒルベルト対応」
ヤウ教授　「リーマンと小平邦彦から複素多様体論の現代の発展へ」

柏原正樹先生は東大の数学科の学部学生でいらっしゃったとき小平先生を指導教官とされ、またカタネーゼ、デマイリー、ヤウの 3 教授の講演のテーマは小平先生の分類理論・変形理論など、超越的な手法による複素多様体論にゆかりのあるものでした。

会場となった東大数理棟の大講義室とラウンジには、土・日にもかかわらず、「良いもの」を共有しようという思いが集まり、「高木レクチャー」の目指す「新しい数学の発展」を求める熱気の中で講演が行われ、コーヒータイムにも活発な議論が交わされました。隣接する 052 講義室では、小平先生の学生時代や海外での同僚との貴重な御写真などのパネル展示が行われました。全講演が終了した 11 月 29 日（日）の夕方には、2 階のコモン・ルームでワイン・パーティが開かれました。

カタネーゼ教授

デマイリー教授


柏原正樹教授

ヤウ教授

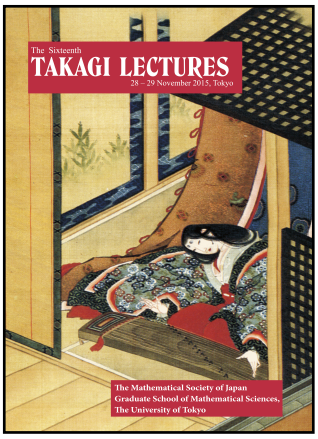
高木レクチャーの準備と当日の運営にあたっては、京大 RIMS の小野薫教授、中島啓教授、当研究科の河東泰之教授、斎藤毅教授と私の 5 名の組織委員に加えて、研究科長の坪井俊教授、さらに中川亜紀さん・佐々木直子さん・

多賀谷華子さん・鈬内純子さんや、ポスドク・大学院生など多くの方々に協力していただきました。日本数学会からは事務局の長谷川暁子さんも来てくださって、その活動が支えられました。

講演の様子は麻生和彦助教・山田泰士さんらによる東大数理ビデオアーカイブス・プロジェクトチームの協力により撮影・記録され、ウェブでまもなく公開される予定です。

第 16 回高木レクチャラーと組織委員（敬称略）：左から 河東、斎藤、カタネーゼ、柏原、小林、ヤウ、小野、デマイリー、中島

第 16 回ポスター



第 16 回高木ブックレット

【高木レクチャー】
「日本の現代数学の父」と呼ばれる高木貞治の名を冠し、2006年11月に創設された講演会。新たな数学の創造に寄与することを目的に、現代数学の最高峰の講演者を招いて年２回、春と秋に行われる。講演は、その分野の専門家に対してではなく、数学の広い分野の学生・研究者を対象に１時間×２回の形で行われる。

【高木貞治】
1875–1960。数学者。東京帝国大学卒業後、23歳でドイツに留学。ゲッティンゲンで世界の俊秀たちに出会い、大きな刺激をうける。帰国後26歳で東大助教授となり、4年後に東大教授就任。代数的整数論の研究で『高木類体論』(1920)を発表、ヒルベルトらの類体の概念を一般化した。「数学のノーベル賞」といわれるフィールズ賞の第１回選考委員(1936年)として世界５人の中の１人に選ばれている。

【小平邦彦】
1915–1997。数学者。東京帝国大学卒業。調和積分論・複素多様体の理論などの業績で日本人として初めてフィールズ賞を受賞（1954年）。19年におよぶ米国での研究・教育活動の後、1968年に東大教授就任。理学部長を経て、1975年定年退官。同年4月より学習院大学教授就任。1957年学士院賞受賞、文化勲章受章。1984年ウルフ賞受賞。京都におけるICM90の運営委員長。
2015 年東大数理のジャーナルで小平生誕 100 周年記念号（編集長：川又雄二郎教授）が出版された。

高木レクチャーのホームページ：http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/